

概要

健康増進及び医療費適正化を目指して、県及び県下3市において個別周知やチラシの配布により重複服薬の適正化を図る

行政課題

重複服薬の適正化

大分県は医療費のうち、特に薬剤費が高いことから、重複服薬の適正化を課題と定義。また、重複服薬を減らすことを目指しつつ、患者が複数の医療機関で定期処方されていることを医師が把握していない状況についても解消を目指す。

委託概要

対象

中津市民：定期処方かつ重複服薬している50人
 別府市民：同対象者287人
 豊後大野市は、個人を特定した介入をしていないため、成果指標として設定せず

内容

- 人工知能を駆使し、レセプトデータを解析して別府市及び中津市民から**重複服薬者を抽出**
- 対象者の特性に応じたメッセージ開発を実施し、**服薬相談を促すはがき作成を行い、サービス対象者に送付**
- お薬手帳携帯を呼びかけるチラシを作成し、これを別府市、中津市及び豊後大野市が各薬局に配布**

期間

平成30年8月～平成31年3月

予算

契約総額879万円
 最低支払額400万円、
 成果連動型支払い上限額479万円

成果

削減薬剤数：実績98剤 / 目標65剤

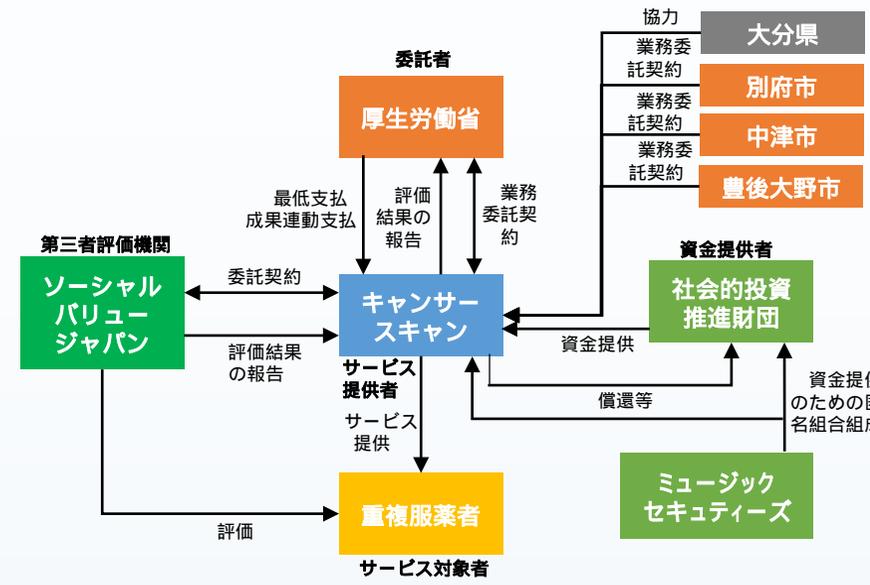
削減薬剤数が向上し、重複服薬適正化の効果が見られた。

支払額

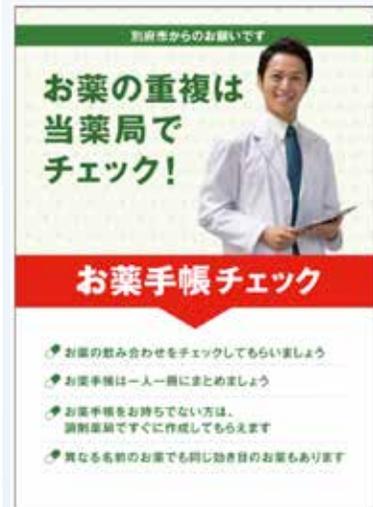
879万円

PFS活用の利点・課題

- 評価や成果目標が可視化された
- 課題の新たな解決方法を発見できる
- 適切な成果目標の設定に時間を要する



服薬相談を促す個別通知ハガキ（別府市）



お薬手帳携帯を呼びかけるチラシ